



# 「福澤育林友の会」ニュース

第44号 発行日2023年8月1日

福澤育林友の会  
東京都港区三田2-15-45 慶應義塾 管財部  
TEL:03-5427-1050 FAX:03-5427-1190  
<http://ikurin.jp/>



## 「生物多様性のための30by30アライアンス」

福澤育林友の会  
会長 岡田 英史  
(慶應義塾常任理事)



今年の夏も豪雨や猛暑といった異常気象が各地で発生し、気候変動が環境に及ぼす影響を身近に感じざるを得ない日々が続いております。義塾における新型コロナウイルスに特化した一律の感染症対策が終了したことで、一貫教育校では、修善寺の幼稚舎の杜や三重の志木の森での活動、中等部の南三陸での林間学校など、多くの行事が以前と同様に実施できるようになりました。3月には岡山落合の森において中等部が植林事業を行っています。大学でも、2011～2019年度に実施された慶應義塾・南三陸プロジェクトが、「みなさんmiraiプロジェクト」として新たにスタートすることになりました。9月には前プロジェクトに参加経験がある大学院生を含む塾生が、志津川山林を中心に南三陸で山・海・里に関わる活動をする予定です。日吉キャンパスのまむし谷を中心とした雑木林においても、普通部生、塾高生、大学生が授業や課外活動として行っていた自然観察や多様性保全作業が再開されています。一方、日本各地で広がっているナラ枯れが、日吉キャンパスや湘南藤沢キャンパスにおいても発生し、問題となっています。

2021年のG7サミットにおいて、2030年までに生物多様性の損失を食い止め回復させるため、陸と海の30%以上を保全・保護する目標が支持されました。この30by30達成に向けた取り組みを進めるために環境省が事務局となって発足した「生物多様性のための30by30アライアンス」に慶應義塾も参加登録を行いました。キャンパス内外の慶應の森で行われている様々な活動を絆ぐための共通の目標にできればと考えております。

福澤育林友の会の活動も、昨年から対面での開催が再開された講演会に続き、今年は研修旅行が復活する予定です。講演会や研修旅行にご参加いただくとともに、引き続き福澤育林友の会へのご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

## 「慶應義塾学校林と共に過ごした日々の思い出」

マルカ林業株式会社 海瀬亀太郎

慶應義塾学校林は1965年「財団法人福澤記念育林会」として産声をあげ、「福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金」並びに「林業三田会」の支援の下で運営してきました。

然しながら政府が進める公益法人改革により、財団としてこのまま存続する事に危機感を持ち2011年3月末に財団を解散し、全ての財産を慶應義塾に寄附し「慶應義塾学校林」として今日に至っています。

この学校林を舞台とする活動の一層の充実を図る目的で2011年「福澤育林友の会」を結成し講演会の開催や研修旅行の実施などを通じ会員相互の研鑽と親睦の場を提供すると共に、頂いた会費を生徒や学生達の活動支援の経費等に充当して参りました。

私は慶應義塾学校林と福澤育林友の会の活動に長年にわたり参画しましたが、その活動を通じ多くの会員や慶應義塾の教職員との交流から多くの事を学び、私の人生に多大な影響を与えて頂きました。

特に印象に残った活動は、2000年6月に当時の鳥居泰彦元塾長が提唱された「塾長と育林体験のたび」が宮城県志津川山林で開催され、この会には学生約40名が参加し、塾からも鳥居泰彦元塾長・長島昭元常任理事・細田衛士元教授・桜本光元教授に加え塾職員の皆様、また地元の三田会からも多数の会員が参加されました。これが慶應義塾を挙げて育林活動に取り組むスタート台となり、それを支援する「福澤育林友の会」設立の原点にもなりました。

さて、それ以外にも記憶に深く残っているのは塾員の井草實ご夫妻のお世話で毎年開催されている「修善寺幼稚舎の杜」に何事にも興味を持つ活発な幼稚舎生と共に参加出来たこと。

加えて「和歌山清水の森」で長島昭元常任理事が先頭に立ち歩道整備やベンチ制作に共に汗を流し学生達と寝食を共にしたこと。また、2011年の三陸沖地震直後に発足した南三陸プロジェクトで、長沖暁子元教授と共に現地で活動する学生達の姿に感動したことです。

今後とも学校林を舞台に活動する生徒や学生達を支援する「福澤育林友の会」の更なる発展を祈念します。



## 2023 年度の活動報告・活動予定について

### ■「森を愛する人々の集い」シンポジウム

日時 2023年5月27日(日) 14:30~17:00

会場 三田キャンパス東館6階G-Lab.

講師 長野麻子氏

22回目となる今回の講演会は、株式会社モリアゲ代表 長野麻子氏をお招きし「慶應の森をモリアゲよう！」をテーマに、ご講演いただきました。

長野氏は「残りの人生を森に使うため」2022年に農林水産省を早期ご退職後、「株式会社モリアゲ」を設立されました。長年のキャリアの中で培ったご経験と人脈から、日本の森、そして慶應義塾の森を盛り上げるための事例やアイデアを多数ご提示いただきました。とてもポジティブでエネルギーギッシュな長野様のご講演に、参加者も気持ちがモリアがる会となりました。

そして楽しい講演会の雰囲気のまま、ファカルティクラブでの懇親会となりました。コロナ禍のため懇親会の開催は3年ぶりとなりましたので新規会員の自己紹介、近況報告などが行われました。新しいメンバーの歓迎を喜び、旧交を温める和やかな会となりました。



(講演を行う長野麻子氏)

(懇親会 近況報告の様子)

### ■研修旅行 2023年11月30日(木)

2023年度の研修旅行については、日帰りでの実施を現在計画中です。

株式会社 長谷川萬治商店にご協力いただき、長谷萬物流の拠点・館林事業所見学を予定しております。長谷萬の物流拠点である館林事業所は敷地面積96,300m<sup>2</sup>、建物10,400m<sup>2</sup>という圧倒的な広さです。

夜は東京都内に戻り、懇親会を予定しております。

#### 【行程(案)】

10:00 東京駅駐車場(予定) 集合 バスにて出発  
12:00 昼食 館林市内にて  
13:00 長谷萬 館林事業所 見学  
15:30 館林事業所 出発  
17:30 懇親会(東京都内)  
19:30 閉会 解散

詳細が決定いたしましたら、福澤育林友の会ホームページ(<http://ikurin.jp/>)にて最新情報を更新してまいります。皆様のご参加をお待ちしております。

## 2022年度 福澤育林友の会 会計報告

会員：154名（2023年4月1日現在）

2022年度	収入	支出	摘要	
前年度繰越金	4,067,833			会費の口座 振替について  2023年度会費の口座振 替予定日は2023年9月 25日(月)を予定してい ます。
会費	1,240,000	0	2022年度会費	
事業参加費	0	0		
利息	37	0	普通預金利息	
寄附	0	1,000,000	慶應義塾へ寄附	
通信費	0	97,918	ニュース・案内等発送通信費	
事業経費	0	146,146	シボジウム・研修旅行	
手数料	0	17,847	会費引落サービス手数料	
当年度収支	1,240,037	1,261,911		
次年度繰越金	4,045,959			

### 【慶應義塾への寄附】

本会会則の目的にある「慶應義塾の学校林の保育に関する支援を行う。」こととして、年度末に残余金の一部を慶應義塾へ寄附しました。寄附から支出した事業・内容については、慶應義塾から連絡を受けて、後日ご報告予定です。

### 【事務局より】

5月に新型コロナウイルスの分類が5類へ移行され、様々な活動が再開されている2023年の夏です。今年は日帰りではありますが、研修旅行も実施を予定しておりますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

会長の巻頭言にもありましたが、南三陸の学校林を舞台に「みなさんmiraiプロジェクト（慶應義塾未来先導基金・南三陸プロジェクト）」が発足いたしました。東日本大震災直後の2011年から2019年まで活動が続いた「南三陸プロジェクト」が進化して復活したプロジェクトとなります。今後の活動について、福澤育林友の会でも逐次ご報告をしたいと思います。

暑い日が続きますので、皆様どうぞご自愛くださいませ。

事務局への連絡につきましては、引き続きメール（f-ikurin@adst.keio.ac.jp）にて頂戴できると幸いです。